

# 評価調査結果要約表

## 1. プロジェクトの概要

- 国名：タイ
- 案件名：繊維衣料製品試験・検査技術向上（TITU）
- 分野：繊維工業
- 所轄部署：鉱工業開発協力部
- 協力期間（R/D）：1997.3-2001.2
- 協力形態：旧プロジェクト方式技術協力（現：技術協力プロジェクト）
- 協力金額：約5.4億円
- 先方関係機関：工業セクター開発部（BISD）繊維工業課（TID）／タイ国繊維研究所（THTI）、工業省（MOI）
- 日本側協力機関：

### 1-1 協力の背景と概要

繊維産業はタイの主な産業の一つである。しかし、中国やインドネシアやベトナムなどの諸国がより安い製品を輸出するようになり、タイの比較優位性が低下してきた。このような世界的な競争の中で生き残るために中小企業は自らの製品の品質向上などにより競争力を強くすることが求められていた。

### 1-2 協力内容

タイの政府は、中小企業の製品品質を向上させるために、工業省繊維工業課の試験・検査サービスの改善を目的として、日本からのプロジェクト方式技術協力を要請した。繊維製品の試験技術及び検査技術をカウンターパート（TID）に移転するとともに、TIDが実施する研修、セミナーや情報・アドバイザーサービスに対し助言を行った。

#### (1) 上位目標：

繊維中小企業又は政府系企業の製品品質を向上させること。

#### (2) プロジェクト目標：

BISD（TID）が繊維中小企業／衣料産業に提供する技術サービスの内容を向上させる。

#### (3) 成果（アウトプット）：

- ア) オペレーション（事業）ユニットの能力が向上される。
- イ) 必要な機械と機材が供与・据え付けされ、適切に利用されるとともに維持管理される。
- ウ) C/P機関の職員の能力が向上する。
- エ) 試験・検査というサービスが制度的に確立され、実施される。
- オ) 研修・セミナーなどを制度的に実施される。
- カ) 試験的に情報提供とコンサルテーションサービスが制度的に実施させる。

#### (4) 投入：

日本側：

- 長期専門家派遣 7名
- 短期専門家派遣 18名
- 研修員受入れ 11名
- 機材供与 1.8億円
- ローカル・コスト負担 14百万円

タイ側：

- カウンターパート配置 19 名
- 土地・施設 6,844.1万バーツ（1.9億円）
- ローカル・コスト負担 2,065万バーツ（0.57億円）

## 2. 評価調査団の概要

評価者

タイ事務所が、“TEAM Consulting Engineering and Management Co., Ltd.”に委託。

Mr. Charat Monaiyapong, Ex-post Evaluation Specialist

Mrs. Chalida Nieobubpa, Senior Scientist

Mr. Wijak Boonpetch, Scientist

調査期間：2003.8.26 \_ 2003.10.31

評価種類：在外事後評価

## 3. 評価結果の概要

### 3-1 評価結果の要約

#### (1) インパクト：

試験・検査業務が2001年にTIDからTHTIに移管された後、その利用者数は急激に減少したものの、現在、その数は増加してきている。それはユーザーのTHTIに対する信用が高くなってきているためである。そして既に132の企業が、繊維試験センター（TTC）強化に係るプロジェクトに参加するためにTHTIに登録した。

#### (2) 自立発展性：

TIDが実施していた試験・検査業務がTHTIに移管されたが、C/PのTHTIに移籍はスムーズに進まなかったため、関連業務の運営体制は弱くなってしまった。加えて、政府からの予算も以前に比して減少傾向にあり、案件の自立発展性が低くなってしまいう懸念がある。

### 3-2 自立発展性とインパクトに貢献した要因

#### (1) 計画に関連する要因：

THTIの運営は2003年度初頭には危急の問題となっていたが、工業省（MOI）はファッション産業振興とともに繊維・衣料製品の品質向上を重点政策としており、その中でのTHTIの役割を明確にした。それを受けて、THTIはその業務について将来計画を作成し、その結果本案件の協力内容が重要性を持つことから、自立発展性が期待される。

#### (3) 実施プロセスに係る要因：

TIDに属するC/PはTHTIより協力・支援要請を受けており、既にC/Pによる協力が開始されている。この結果、今後のTHTIの取り組み強化に資することが期待される。

### 3-3 自立発展性とインパクト阻害要因

#### (1) 計画に関する要因：

TIDのカウンターパートが計画とおりにTHTIへ移籍しなかった事は、阻害要因となっている。

#### (2) 実施プロセスに係る要因：

ア) 工業省幹部の異動（交代）

イ) 供与された機材はTHTIに一部しか移管されなかったため案件の実施効果が低くなっている。

### 3-4 結論

本プロジェクトは終了前にプロジェクト目標を達成していたが、TIDからTHTIへの業務移管がスムーズにおこなわれていないため、プロジェクトの効果発現に悪影響があるとともに、自立発展性も阻害されている。

### 3-5 提言

短期的：

- 多くのC/PがTDIからTHTIに移籍するよう働きかけること。
- その他職員の能力向上をはかること。

長期的：

- THTIはタイ国内関連企業に、THTIの提供するサービスが必要なレベルを満たしていることを認識してもらうよう、継続して努力すべきである。
- 同じく海外輸入業者による認識を高めるよう努力すべきである。

### 3-6 教訓

- 経済危機は案件の自立発展性に影響を与えた。
- 専門家の能力は案件成功の主要要因と言える。
- THTI（実施機関）の独立会計制度はかならずしも案件の自立発展性につながるとは言えない。計画の段階で問題が予見される場合、他の選択肢も検討すべきである。

### 3-7 フォローアップ状況

該当なし。